

## 第2回 浜松市ユニバーサルデザイン審議会 会議録

日 時：平成30年3月16日（金） 15:00～16:30

会 場：浜松市役所 本館8階 第5委員会室

出席委員：伊豆裕一会長、島田江津子委員、高橋久美子委員、中西利充委員、  
二橋眞洲男委員、安田育代委員、米田典弘委員

欠席委員：太田順子副会長、原田博子委員、趙 驕陽委員

事務局：山下昭一部長、石川淳課長、金子担当課長（スポーツ振興課）、  
近藤雅訓課長補佐、平澤啓樹副主幹、今尾友美、原真人、河野勝子、  
鈴木俊子

傍 聴 者：4人（報道2人、議員2人）

会議録作成者：ユニバーサル社会・男女共同参画推進課

記録方法：発言者の要点記録（録音の有無：有）

---

### 《会議次第》

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議事
  - (1) 共生社会ホストタウンの取組みについて
  - (2) 平成29年度主要事業実績及び平成30年度主要事業計画について
4. その他
5. 閉会

---

### 《配付資料》

参考資料

議事資料

【資料1】 共生社会ホストタウン浜松市の取組み

【資料2】 平成29年度主要事業実績および平成30年度主要事業計画

---

### 《会議の経過》

#### 1. 開会

##### （事務局）

平成29年度第3回浜松市ユニバーサルデザイン審議会を開会する。

当審議会は、浜松市ユニバーサルデザイン条例第18条に基づき、浜松市ユニバーサルデザインの推進に関する調査、協議および評価をする組織として設置されたものである。

## 2. 会長あいさつ

(伊豆会長)

本年度6月に第1回を開催し、平成29年度に策定したU・優プランⅡ第2期推進計画の基、ユニバーサルデザイン(UD)施策に取り組んでいる。本日の議事は、今年度事業の進行状況と、パラリンピックについてである。

私の所属する静岡文化芸術大学は、開学当初からUDを標榜していた大学であり、来年度は20周年を迎える。UDに対する理解も深まっているが、学問の世界では近年「インクルーシブデザイン」という言い方がメインになってきている。一般的にはUDという言葉の方がよく知られているため、大学でも今後しばらくはUDという言葉を使っていくこととなった。市の取組も、インクルーシブを含めたUDという事で、来年度以降も様々な活動を展開していくと思う。委員の皆様も、UD課の取組に対して是非良い意見を出し合っていたきたい。

## 3. 議事

(事務局)

当審議会は、浜松市付属機関等の会議の公開に関する要綱に基づき、公開会議とする。また会議録は事務局で作成し、事前確認の後、浜松市付属機関等の会議録の作成および公開に関する要綱に基づき、発言した委員の名前を記載の上、公開することとする。

議事の進行については、浜松市ユニバーサルデザイン審議会運営要綱第4条の規定により議長は会長が進めるとされているので会長にお願いしたい。

### (1) 共生社会ホストタウンの取り組みについて

事務局より

(資料1) 共生社会ホストタウン浜松市の取り組み について説明。

(伊豆会長)

共生社会ホストタウンの取りまとめ課はUD課となるのか。

(事務局)

取りまとめ課はスポーツ振興課であるが、庁内連携会議を立ち上げて、各部署の連携を図りながら進めていく。

(伊豆会長)

UD審議会やUD課の役割はどのようなものか。

**(事務局)**

共生社会ホストタウンとしての取組を、パラリンピックブラジル選手団の合宿受入れという一過性のもので終わらせないために、2020年以降も今まで行ってきたUDのまちづくりをさらに推進できるよう、この機会をうまく利用し事業を展開していく。

共生社会ホストタウンは、大会後の一つのレガシーとなると考えている。共生社会ホストタウンの大きな目的は二つあり、その一つはUDのまちづくりを推進すること、もう一つは心のバリアフリーを推進していくことである。これらが達成できれば、UDのまちづくりが一層進み、来訪者も来やすくなる。その取組によって、市民にとってもさらに安心して快適な生活ができる都市となるだろう。これを一つの契機として、各部署との連携を図りながら進めていきたい。

**(伊豆会長)**

UD先進都市として、基盤を一層強化するために成功させて欲しい。

**(安田委員)**

本日、小学校の卒業式が行われたが、市長並びに教育委員会告示の中に、浜松市が2020年のオリンピック・パラリンピック、特にパラリンピック選手団事前合宿受入れをするため、卒業生もボランティアとして関わってほしいと書かれていた。教育委員会も含め、庁内で連携して進められているのだと感じた。

**(事務局)**

庁内連携会議のメンバーに教育委員会も入っている。

**(安田委員)**

パラリンピックの種目のうち、22種目の選手が浜松で事前合宿を行う予定であるため、今後詳細な計画が組まれていく。市内では、子供の人数が集まらないために閉校になってしまった学校がいくつかあり、その地域に暮らす人たちは活気がなくなり寂しい思いをしていると思う。活気を取り戻すためにも、選手団の受入などで、閉校した施設をうまく活用できる方法を考えてほしい。

**(伊豆会長)**

選手団は主に専用のバス等で移動すると思われるが、これを期に一般のバスや電車についても一層のUD対応に向けた整備が進むのが望ましい。

### （高橋委員）

事務局も説明の中で「オール浜松」という言葉があり、特別支援学校も入っているようだが、どのような関わり方をするのか。

### （事務局）

今は未定だが、体育館の借用などを行う予定である。聴覚支援学校には卓球部があり、選手団の練習相手になると思う。また障がい者スポーツの普及はもちろんのこと、子供たちに選手とふれあう機会を提供できればなお良いと考えている。

### （伊豆会長）

交流先の候補もこれから検討することになる。是非市内の障がいを持った方が勇気を持てるような場にしてほしい。

### （二橋委員）

浜松には約26,000人の障害者手帳所持者がいて、国体には毎年選手を輩出しているが、パラリンピックへの出場は難しい。日身連あるいは関東甲信越ブロックの会においては、東京パラリンピックを成功させるために数年前からPR活動を行っている。

市内でも障がい者スポーツとして、グランドゴルフ、吹き矢、フライングディスクなどの練習をしているグループがあるが、中でも卓球は活発である。これらの活動は、健常者ボランティアと障がい当事者同士が助け合って楽しく活動している。皆さんにもそのような取組を是非知っていただきたい。

障害者団体の活動として、できるだけ人が集まる様なことはやっていきたい。浜松は、本当にユニバーサルデザインが浸透していると感じ、恵まれた地域に住んでいることを嬉しく思う。

### （中西委員）

ユニバーサルツーリズムについて日々勉強している。オリパラやラグビーワールドカップも間近に迫っており、我々の役割は、選手団の受入れに加えて、「街中の賑わい」という視点から、他言語案内サインなどの整備を進めていこうと考えている。

浜松観光コンベンションビューローは、4月から新たに「DMO」として組織変更する。その中で経済的な賑わいを含め、浜松を盛り上げていきたい。

## (2) 平成29年度主要事業実績および平成30年度主要事業計画

事務局より

(資料2) 平成29年度主要事業実績および平成30年度主要事業計画  
について説明。

### (伊豆会長)

1 ページ目の学習支援事業の実績が上がっている中で、サポーター派遣はプログラム数が減少しているが、他のプログラムと統合したのか。

### (事務局)

平成28年度は3つのプログラムがあり、その一つは視覚障がいを持つ職員が行っていたが、職員の体調不良により派遣が不可能となったため、プログラムを削除した。このプログラムは学校からも好評だったため、大変残念である。

### (二橋委員)

以前、ある小学校から出前講座を依頼され、車いすの方とともに出向いた際、たくさんの子供たちとのふれあいの場を作っていただいた。講座の中で子供たちから「車いすの方はどんな事に一番苦労しているか」という質問があった。車いすの人は「朝起きた時から寝るまですべて」と答えた。車いすにペットボトルが取り付けられている理由は排泄用だと丁寧に説明し、直接ふれあう中で生活全てが大変だということを知って分かってもらった。このような講座が行われている浜松はUDが進んでいると感じた。直接ふれあうことで、障がい者への理解や、困難さもわかっていたのではないかと思う。障がい者の苦労や困難を知ること、障がい者差別などはなくなるだろう。このような講座は現在も行っているのか。

### (事務局)

当課の出前講座とは別に、障害保健福祉課が障がい者とのふれあいを通して理解を深め合う事業を行っている。

当課では以前、サポーター派遣で車いすの方を派遣するプログラムがあったが、現在は行っていない。

### (二橋委員)

障害者協会に車いす部があったが、重度化して活動できる人が減ってしまった。車いす利用者でも卓球をやっている人がいるが、体調に合わせて練習時間を調節しながら、自分のできる範囲で一生懸命活動している。様々な場所で障

がい者同士の付き合いが始まっているので有難い。障がいがあっても、残存機能を精一杯使って練習している。現在活発な活動を行っているのは卓球だけだが、それをもう少し広げたい。

**(事務局)**

パラリンピックの事前合宿受入により、障がい者をもっと身近に感じて知ってもらうことも一つの大きな目標であり、UDの視点や共生社会の視点で考えていきたい。

**(伊豆委員)**

UDサポーターとして派遣される方々に謝礼を支払う場合はあるのか。

**(事務局)**

UDサポーター派遣については、1人1回3,500円をお支払いしている。

**(伊豆会長)**

謝礼をもらえることで生きがいにもつながると思う。

**(二橋委員)**

ボランティアは無償が基本だが、福井県では何年も前から有償ボランティアという考えが浸透していた。交通費程度であっても、謝礼は必要であると思う。当協会でもボランティアには交通費を支払っている。

**(伊豆会長)**

健常者より車の手配などが大変だろう。

**(島田委員)**

UD施設見学の会場がアクト通りであることについて、アクト通りは一般の方の使用頻度が少ないというのが一つの課題だと思う。浜松の中心部に位置する素晴らしい場所だが、小学生たちの校外学習には、一般の方もよく利用する場所を選択するのが望ましいのではないか。

**(事務局)**

アクト通りは中心市街地の一角であり、週末にはイベントを開催するなど、活性化に取り組んでいるが、その成果がまだ出せていない。当課で利用しているのは、UD施設が充実しているという理由からであり、他にない素晴らしい場所である。これからも事業を行っていく中で検討していきたい。

**(高橋委員)**

平成29年度のみんなで広めるUD提案事業の申し込み件数はいくつか。  
また、来年度は男女共同参画の委託事業と統合するということだが、受付はどのように行うのか。

**(事務局)**

1点目のご質問について、申込件数は6件だった。  
2点目について、来年度は合計で8事業程度採択予定で、UDと男女共同参画のテーマをそれぞれ設けて、各4件程度採択する予定である。

**(米田委員)**

遠州鉄道では、毎年ノンステップバスを13台ずつ導入している。28年度時点ではノンステップバスの比率は74.5%になった。29年度にも13台入れたので、比率はさらに上がっている。まだ古い型のバスが残っているが、今後も少しずつ導入していく。

また、今年の2月1日からバリアフリー化された浜北駅が供用を開始し、ホーム自体はかなり広くなった。今までは車いすの方も階段に板を付けて対応していたが、新しい駅にはスロープを設置した。鉄道の施設を変えるのは費用もかかるが、少しずつ改善している。今後の市民の方の移動と、オリンピック・パラリンピックで活用できると思う。

**(伊豆会長)**

新しい施設等を作るには健常者目線だけだと不十分であり、障がい者が積極的に参画できれば、相互理解できてよいと思う。冒頭で「インクルーシブ」という言葉を紹介したが、障がい者を含めるという意味もある。

**4. その他**

**(事務局)**

来年度4月1日から組織改正により、「UD・男女共同参画課」という名称に変更される。業務については今まで通り、UDと男女共同参画を担当していく。

また、平成30年度UD審議会の委員改選は行わない。来年度第1回審議会は6月頃を予定しているので、引き続きお願いしたい。

**5. 閉会**